

## 大学生と小学生による協同学習事業 ～珠洲市立上戸小学校との地域の魅力発見事業～

団体名●永坂ゼミナール／代表者名●永坂正夫（人間科学部こども学科・教授）

### はじめに

本事業は、県内大学生と能登地域の小学生の協同学習を通じて、次世代の担い手となりうる人材育成を図ることを目的とする石川県里山振興室の主催事業である。永坂4年ゼミナールは震災被害を受けた珠洲地区の上戸小学校と連携し、複式学級高学年の児童らと共に上戸地区の歴史的背景、地域資源の調査をおこない、半年間にわたり地域の魅力を再発見するワークショップに取り組んだ。

### 活動内容

地域の魅力を伝える影絵を作成することが学習のゴールである。最終的な影絵動画は影絵師の川村亘平齋さんが担当し、学生は児童と共に影絵のキャラクター作成までに取り組んだ。

6月10日のオンライン打ち合わせでは、今後どのように事業を進めてゆくか上戸小学校の寺井校長、三盃教頭、担任の松本教諭と大学生との話し合いが

行われた（参加学生数6名）。9月4日には児童との顔合わせの後、三盃教頭の案内で学校の総合学習に協力頂いている地域在住の泉さん（おんおきば（かき餅）指導者）、初鳥さん（龍神太鼓指導者）を訪問し、児童の学習のための事前インタビューを実施した（参加学生4名）。10月31日には児童とともに上戸地区の特徴を話しあい、泉さんと初鳥さんに何をインタビューするかを考え、次回の取材方針を児童と共に立てた（写真1、参加学生4名）。11月6日には地域の学校協力者に児童とともに再びインタビューを実施し、次回の影絵作成のための情報収集を実施した（参加学生4名）。11月17日には、上戸地区をテーマとした影絵キャラクターを児童とともに作成した（写真2、参加学生4名）。

### 成果、結果の考察および今後の課題、展望

活動を通して高学年の総合学習の運営と指導の実際について学ぶことができた。特に「社会に開かれた教育課程」の実践では、地域の方々の協力が不可欠であり、普段より丁寧な連携を行っていることが最も重要であることを学ぶことができた。

本事業への参画は年度限りであり継続はないが、児童数の減少が著しい能登地区にとってこうした連携が何らかの形で継続されることの必要性を痛感した。



写真1 魅力発見作業の様子



写真2 作成した影絵キャラ